

四コマ・康路

日本、頑張れ!

第二次世界大戦後、日本の経済、政治と社会は混乱に陥った。

それから
経済民主化による
高度経済成長
の時期に入った

1970年代のオイルショックにより
狂乱物価が発した。

日本は
省エネ
政策を強力に進めた

OIL

第二次石油危機の時期に、それほど景気低迷はおきなかった。

1980年代日本は円高不況となった。

日本は低金利政策を採用したことによる
バブル景気となって、
**世界第二位の
経済大国**となった

日本はさまざまな困難をみごとに乗り越えました。今回の災害も克服し、元気を取り戻せると思います。

そうですね!
日本の回復
を心より
祈っています!

皆様の激励、ありがとうございます!

2010年3月11日午後、史上最大の地震が発生しました。

広東外大の留学生達は、

外出の陳冠賢さんは地震を感じ、学校の避難所へ行きました。

地震が発生した時、郁琳さんはまだ千葉県内でアルバイトをしていました。

彼女は慌てず日本人と一緒に避難しました。

周雲さんは東金市内の避難所へ行きましたが、夜まで家族と連絡が取れませんでした!

それから**電力、水、食品**の供給の足りない数日を過ごしました。

11日夜、広東外大東語学院は在日の31人の教師と学生の無事を確認しました。

家族、先生、友達からの心を込めた激励に感動した留学生たちは:

ありがとう、
私は無事です、
ご安心ください!

今回の登場人物

広東外大からの留学生、好奇心が強く、外国人との交流は得意です。地震の後は無事に帰国しました。

陳冠賢さん

広東外大からの留学生、通勤で地震が発生したときもアルバイトしていましたが、無事に日本人と一緒に避難しました。

郁琳さん

広東外大からの留学生、楽観的で素直な女の子。地震の時にいろいろ困難を経験して、成長しました。

周雲さん

住みのデザイン班メンバー。日本の風土と文化を自ら体験し、漫画を描き続けています。

康路さん

次回予告

親愛なる愛読者の皆さんへ
今回は私が云山四季での最終編となりますよ。
みなさん、どうぞお楽しみに!

日本人編

千年に一度とも言われる巨大地震とそれによる大津波、原発問題は日本列島に甚大な被害をもたらしました。ここでは、日本に戻った広東外大の(元)教員や本誌愛読者らの声を聞かせてもらいました。

気遣いと礼儀

三上恵さん

元広東外大日本語教師 広島在住

この3月、広東外大から6年ぶりに広島に戻ってきて、大地震のニュースに接しました。改めて日本を再認識しています。例えば配給されるものをもらうときも、秩序が乱れていないと思います。「今必要なものは何ですか?」と聞いて回っても、あまり口に出さない被災者の方々もいるそうです。それは、他人に少しでも迷惑をかけないという国民性なのかなと思います。

桑原秀弥さん

元広東外大日本語教師 千葉出身

日本人が災害の時にまで助け合い、譲り合う心を失わないこと、これこそが日本人の伝統と言うのか、精神なのかも知れません。それを報道で知って、日本人としての誇りを感じました。

小室直子さん

元広東外大日本語教師 茨城在住

私の実家は福島原発から150キロ。近所では11日も断水していて大変不便でしたが、近くに井戸を持っている人は、それを自由に使わせてくれたので大変ありがたかったです。

整理・林潔璇 丁依若

感謝の気持ち

吾郷宣弘さん

云山四季の愛読者 神奈川在住

皆様の日本への温かいお気持ちを知り誠に嬉しく深く感謝いたします。中国や韓国のトップがいち早く日本大使館に出向き惜しみない協力や気遣う気持ちを伝え黙祷する姿をみて多くの日本人が感動したと思います。また多くの方々のご支援は日本の人たちは一生忘れないでしょう。

三上恵さん

元広東外大日本語教師 広島在住

みなさんの応援してくれる思いは被災者の方だけでなく、被災していない私たち日本人にも届いていますよ!

小室直子さん

元広東外大日本語教師 茨城在住

中国や他の国の友達や学生が「がんばれ」と応援してくれた気持が一番うれしかったです。本当にたった一言でも励みになりました。

現状から未来へ

三上恵さん

元広東外大日本語教師 広島在住

最初はTVでぐしゃぐしゃになった町を見て、ただただ唖然としました。そして原爆が落ちた後の状態に似ているなあと思いました。でも、人々の頑張りで広島は復興することができました。ですから、今回被災地もみんなの力で復興できると信じています。

小室直子さん

元広東外大日本語教師 茨城在住

広島の三上先生のお宅に泊めてもらい、原爆を落とされた広島の今の姿を見てとても勇気と希望をもらいました。歴史の傷跡を抱えながらも、完全に復興して元気に生活している広島の人々を見られたからです。福島も必ず立ち直れると確信できました。

私のお見舞状

広東外大日本語学部学生から

3年 王穎

去年、日本へ短期留学に行きました。冬休みを利用して旅行した私は大晦日を仙台で過ごしたから、その杜の都に特別な感情を持っています。立派な仙台駅や定禅寺通の綺麗な年末年始のイルミネーションなどを思いながら、身に沁みた痛みを感じました。

今、毎日必ずNHKラジオニュースを聞きます。福島第一原発の冷却作業や救援情報などを聞き、日本にいる方々のご無事をお祈りします。ネットで福島第一原発の50人の勇敢なる人たち、地震と津波から命を救う救援隊の隊員たち、助け合ったりしている一般市民など、日本の方々に関する報道をたくさん見ました。日本人の冷静さとマナーの良さに感心しております。そのような素晴らしい方々が力を合わせて災害と戦うからこそ、きっと難関をぐり超えられると私は信じております。日本、ガンバレ!一日も早く回復されることを祈っております。

3年 范玲麗

東日本を襲った今回の大地震は日本にとって甚大な被害だけではなく、全世界の災難と言えます。アメリカのオバマ大統領は、いかに文化や言葉や宗教が違っても、究極的に人類は一つなのだという話をして、復旧支援に手を尽くしています。私もそう思います。現在、全世界の人々は心をつにして、力を合わせて、日本を支援しています。2008年に、四川大地震が起こった時、最初に中国を支援してくれた外国専門救助隊は日本でした。中国人として、日本に恩情を覚えています。今度は、中国から日本に救いの手を差し伸べる時だと思います。私はいつも日本に関心を持っています。この多くの犠牲者に深く心を痛めています。しかし、日本は自然災害への豊富な対応経験と戦う精神で、今度も必ず打ち勝ると私は信じています。「頑張れ、日本!」と中国から祈っています。

3年 閻振宇

この大惨事を誰が想像したでしょうか。日本語を専攻した私は日本に親しみを感じ、日本の被害に深く心を痛めています。中国に住む私は日本大震災の情報を胸がつぶれる思いで見つめながらも、普段の日常に身を置いています。皆さんを慰めようと思っても、やはり何も言えないような気がします。多くの方がなくなりました。計り知れないほどの財産が失われてしまいました。中国人としても、2008年の四川大震災の時、そのような痛みをしみじみ感じたことがあります。お気持ちは良く分かります。タゴールの詩に「寒さに震えたものほど、太陽の暖かさを感じる」と言う一節があります。まさにその通りです。泣きたいなら、思う存分に泣けばいいです。但し、涙が乾いたら、明日の太陽に向かって、元気いっぱいに進んでください!

3年 葉月菲

よく「どうして日本語を勉強しているか」と聞かれて、今までは理由をはっきり言えませんでした。しかし、今度の日本大震災後、答えを出しました。言語を学ぶだけではなく、日本人がどんな些細なことに対しても真剣な態度、非常事態にもかかわらず冷静で礼儀正しいという素晴らしいさなどを見習いたいと思ったからです。第二次世界大戦後、日本は世界を驚かせたほどの高速で発展し、強大になっていきました。今度も必ずもう一つの奇跡を作れると信じております。

2年 段隠梨

日本を襲った大地震のニュースを見て、3年前の四川地震と同じで、自分自身が受けたように、被害者の心が早く回復するように祈りました。四川地震の時、私は故郷で実際に経験して、本当に怖かった記憶、身と心に刻まれています。

あの時、日本の救援チームは初めの外国救援者として被災地区に来て、被害者を助けてくれました。日本に感謝する気持ちを持っています。命の尊さは国籍なんかより遥かに大切です。中国人にしても、日本人にしても、災害があれば、互いに助け合うのは当然です。できれば、自分も被害者のために何かをしたいと思います。募金活動があれば、絶対参加します。だから、日本、頑張れ!前を向いて歩こう!と呼びかけます。

3年 譚淑瑩

非常事態でも、日本人が冷静で秩序を守っている涙ぐましい光景を見て、非常に感動しています。精神がこんなに高いレベルに至った日本人こそ、地震災害なんかきつと乗り越えると私は信じています。

今回の大地震に日本が襲われ、被災されたのは日本人ではなく「人間」だと思っております。こういうふうに思ったら、日本は絶対に孤立無援ではなく、全世界が日本を支えています。どんなに苦しい思いも、数え切れない悲しみも、信じあえる仲間と全てを分かち合えます。だから、今はどんなに辛くても、挫けず、迷ってはいけません。胸の奥に大きな希望を抱いて、自分を信じて、仲間を信じて、人間を信じて、光り輝く未来を諦めないで頑張ってください。

「日本頑張れ!」1年4組からのメッセージ

地震発生から3日後の3月14日、日本語学部の岡沢成俊先生は1年4組の学生から、クラス24人全員が自発的に書いた日本への励ましの言葉が書かれていた画用紙を受け取った。

先生宛てのメッセージではあるが、すでに大阪出身の先生の家族や親戚が無事であることを知って書いていた学生たちの言葉は、つまり日本人全体に対する応援のメッセージにほかならない。日本語を勉強し始めてわずか4ヶ月間なので、使える単語は少ないが、相手を思う強い気持ちは必ず届くものだ。

広東外大のみなさんへ

東日本大震災が3月11日に起こった時、私は科学アカデミーでの講演のために、パリに滞在しておりました。3月13日に帰日しましたが、故郷の宮城県を中心にした地震と津波が予想以上の災厄をもたらしたことを知り、急遽、3月22日からの広東外大での講演を「大震災と環境社会主義について」にすることに決めました。横浜の自宅の本棚の多くが倒壊したままの状況の中で講演原稿を書きました。広東外大の聴衆は、とても熱心で、これからの中日の恒久的友好の重要な架け橋になることを確信いたしました。私は日本の東北人として中国のみなさんの温かい援助に深謝します。世界に誇れる21世紀の東アジアの文明をともに建設いたしましょう。

東京大学前教授(科学史) 佐々木 力(2011年3月26日識)

